

令和4年度第2回浜松市歯科保健推進会議 会議録

- 1 開催日時 令和5年3月2日（木）午後1時00分から午後2時30分
- 2 開催場所 浜松市口腔保健医療センター A・B会議室
- 3 出席状況 委員 木村 裕一（会長）、安藤 香澄、池谷 志保、
磯部 智明、稲川 弘子、小田 史子、北村 庄吾
才川 隆弘、澤井 康行、村上 祐介
- 事務局 鈴木達夫医療担当部長、平野由利子健康増進課長、
渥美雅人健康増進課長補佐、伊藤梓口腔保健医療セン
ター所長、川瀬真由口腔保健医療センター、板倉称健
康福祉部参与、島和之健康医療課長、加藤浩二介護保
険課長、久保田尚宏障害保健福祉課長、鈴木博高齢者
福祉課医療・介護推進担当課長、竹村吉弘国保年金課
長、井川宜彦こども家庭部幼児教育・保育課幼児教
育指導担当課長、冨部哲也学校教育部健康安全課長
- 4 傍聴者 0人
- 5 議事内容 (1) 令和4年度上半期 歯科口腔保健事業実績
(2) 令和4年度幼児教育保育施設における歯科健康診断の結果
(3) 口腔保健支援センターの事業実績
(4) 歯科口腔保健推進に関する浜松市の取組
(5) 歯科口腔保健の推進に関する委員のご意見
(6) 令和5年度歯科保健事業計画
- 6 会議録作成者 健康増進課口腔保健医療センター 井川昌代
- 7 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 有

8 会議記録

議事

(1) 令和4年度上半期 歯科口腔保健事業実績

(事務局)

資料に基づき令和4年度上半期歯科口腔保健事業実績について説明を行った。

(委員)

質問なし

(2) 令和4年度幼児教育保育施設における歯科健康診断の結果

(事務局)

資料に基づき令和4年度幼児教育保育施設における歯科健康診断の結果について説明を行った。

(委員)

質問なし

(3) 口腔保健支援センターの事業実績

(事務局)

資料に基づき口腔保健支援センターの事業実績について説明を行った。

(A委員)

④歯科口腔保健推進に関する啓発の「いい歯の日」前後において事業所に啓発資料等を配布したアプリを用いた健康チェックについて、お聞きしたい。

歯周病は20代30代から発症するといわれ、約7割が発症されていると言われていいる。乳幼児期や学齢期でむし歯や噛み合わせに関しては、ある程度教育されているが、歯周病に関しては健康教育があまりされていない現状がある。その中で歯周病に関して、啓発や知識の普及のためにアプリを使ったことは非常に有効的だと思うが、事業所でどのくらいの方がアプリに反応し、それが歯周病検診に結び付いたのか、また、市は今後の展開をどのように考えているのかを伺いたい。

(事務局)

この件に関しては、エヌ・ティ・ティ・データと行った事業となるため、現在一緒にデータ解析を行っている。実際、ちらしをまいた数に対してアプリに反応した数は少なく、アプリを使った状況よりも紙媒体の方が反応がよいこともあり、今後、どのような形でデジタル媒体を使用していくかを考えている。来年度の会議で報告させていただければと思う。

(B委員)

歯の健康教育に関して、歯周病を理解してもらうため、もう少し下の世代から話すことは可能かと思う。学校等で組み込むということは、支援センターとしてはどのように考えていくのか。また、支援センターとして、包括的に取り組み、課の枠組みから外れたところを期待するというのが本来の目的だと思う。若年から、その習慣をつけていく必要から、小学校中学校高校のうちから定期受診が当たり前だという考えを持つことが、

今後のために重要なことだと考えている。それに対しても、どのようにアプローチをしていただけるかということ課をまたがって考えていただきたい。

(事務局)

今後の課題とさせていただきたい。

(会 長)

⑥浜松市歯科口腔保健推進計画の評価のなかで、8歯の健康の目標(P14)に対しての評価が他の分野に比べて非常によい結果となっている。簡単に達成できる目標ではなく、今浜松市において何が課題で重要なのか、目指さなければならないのか、次期計画を立てる際には考えて欲しい。

(事務局)

評価に関しては、浜松だけではなく日本全体が良くなっているが、今後また違う課題が出てくると思うため、国の方向性もしっかり確認した上で、来年計画を策定していきたい。

(4) 歯科口腔保健推進に関する浜松市の取組

(事務局)

歯科口腔保健推進に関する浜松市の取組について説明を行った。

1) 生涯にわたる歯科口腔保健対策

学齢期の学校における歯科保健の推進について

(事務局)

健康安全課より、第1回会議の質問事項について口頭で回答を行った。

定期健康診断等のときに使用する歯鏡がミラーの反射が低下し、診療の歯科健診に支障をきたしているため、適切な時期の交換をお願いしたいというご意見について回答する。歯科健診等に使用するミラーは、各学校の予算での購入としている。今年度は、新型コロナウイルス感染症の文科省からのコロナの補助金を活用して、ミラーを購入した学校が数十校あった。来年度は、この補助金はないと思うが引き続き、学校の予算を活用しながら、劣化したミラーについては交換をしていきたい。

2) 状況に応じた歯科口腔保健医療対策

災害時の歯科口腔保健医療

(会 長)

災害時の歯科衛生士のボランティアに(P20)について、研修会や募集をするとされているが、災害に関しては、コロナ禍になりなかなか前に進まなかったが少しずつ制限が緩和されてきているなか、今後どのように検討されるかを伝えたい。

(事務局)

健康医療課としっかり整理した上でまた考えていきたい。

1) 生涯にわたる歯科口腔保健対策

学齢期の学校における歯科保健の推進について

(B 委員)

先程と関係していることだが、学校における歯科保健の推進と書いてあるが、歯科に関する研修内容なものが入ってこない。歯周病は、ならないことが大事だけれども、なってしまうことがほとんどだとすると、これをいかに進行させず対応していくことが大事になってくる。そのためには定期的な受診（メンテナンス）・管理は欠かせない。このことを学齢期に基礎知識として持つことは、成人期になり教育をするよりも有効であると考え。ぜひ、令和5年度の計画の中に入れていただければいいなと思っている。

(事務局)

ご指摘を伺い、来年度の中に考えていきたいと思う。定期健康診断等のお知らせの中でも、歯肉炎の疑いについて保護者にしっかり伝えることは大事だが、子供たちに対しても歯肉炎等について、どういう形で伝えていけばよいかは、相談させていただきながら進めていきたい。

(5) 歯科口腔保健の推進に関する委員のご意見

(事務局・委員)

歯科口腔保健の推進に関する委員の意見について資料に基づき説明を行った。

(C 委員)

高齢者の利用者やその家族に歯科についてどう意識を高めていくかは、ケアマネジャーが大きな鍵を握っていることを認識している。市内のケアマネ全員が意識を高めるために、毎年ケアマネ協の会議・総会を行っているので、その時にケアマネに PR や情報発信していくことができれば、より市内の多くの必要性、重要性を伝えることができるのではないか、5年度は6月24日に ZOOM で開催して行く予定である。

(D 委員)

障がいのある子どものお母さんには、歯についてすごく関心を持っている保護者とあまり関心を持たない保護者と両極端いる。実際、定期的な受診と歯科医院に一緒に通っている人たちは、子どもも保護者自身も定期的に受診している。一方、子どもを連れて行かない保護者は、自身もかかっている。むし歯なら親も痛いからかわいそうだと思う歯科医院に連れて行くが、歯周病に関しては、まだそれほど認知されていないところがある。市では十分に PR をしているようだが、実際には、歯周病予防の大切さの認識がまだ保護者自身にも伝わりきっていないと思う。

市の出前講座の利用を、障がい者の施設にもう少し PR していただければと思っている。仕上げ磨きについてや施設内での口腔ケアについてなど、講座でお話できる内容を具体的に例に上げて案内をいただけるとよいと思う。

(事務局)

歯周病検診、歯周病の予防の周知に関しては、まだまだ至っていないところがあると思うため、今後も引き続き行っていきたい。

施設への出前講座ですが、こういう内容の講座を行っているというものはないが、こ

ういう講座の内容でやって欲しいと依頼をいただければ、その依頼に合わせた講座を提供することはしている。具体的には、障がい関係では、ダウン症親の会方から小さい頃からのかかりつけ歯科の重要性であったり、ダウン症の方は経年的にどういった口の経過をたどっていくのか話をして欲しいと毎年依頼がきたりしている。こういう内容で講座をとるという希望があれば可能な限り対応していくため、ご検討いただきたい。

(E 委員)

私達の年齢になってくると大体、かかりつけ医はいる。ただ、入れ歯で困っている方や歯みがき粉は基準的に1センチぐらいでいいか、口のうがいは何回すればいいかという問い合わせがあった。また、口を歯ブラシではなく水圧できれいにする器具（ウォーターピック）について聞いて欲しいと言われている。

(会 長)

歯みがき粉の量などの質問については、個別にかかりつけ歯科医院で相談していただくか口腔保健センターの電話相談で相談していただき一つ一つ解決していけばいいと思う。また、対面が必要であればまたその機会を作っていけたらよいと思う。

ウォーターピックは、細菌の膜（バイオフィルム）を取ることは難しいため、歯ブラシでこすらないといけない。その辺のところは、専門的な知識があるので、お伝えできるようなところがあればよいと思う。

(F 委員)

今日感じたことですが、妊娠期、乳幼児期に関してですが、浜松市は研修をはじめ、いろいろな企画をしているが知らないことがたくさんあった。歯科の情報を園長会で伝えても興味のない園長は、それを園の方で周知しないままになってしまう。私達をもっと知って動かないといけないと感じたため、次回の園長会ではしっかりと話したい。

また、先ほど報告いただいたアンケートやチラシの実施について、幼稚園・保育園・こども園の保護者向けに子どもと一緒に参加できるものであれば、回答をしてくれる方が増えると思う。幼稚園などからデータで依頼することも可能である。

どこの園でもむし歯になる子は少ないと思うが、かむ力や飲み込む力が弱いということを実感しているため、私達自身の意識をもっと高めていきたい。

(G 委員)

歯科医院に本来受診すべき方で、受診してない方がかなりいるのではないかという印象を持った。それには、何か動機付けさせることだとすると、例えば、年に一回のがん検診あるいは特定健診時に一言、歯科健診を受けるような話を進めることが大事かな。その時には、市からパンフレットや受診券みたいなものがあり、説明ができればよいと思う。

毎年、行っている健診は比較的受診する機会が多いが、5年後など隔年健診になると、受診率がガクッと下がる印象がある。歯周病健診も5年刻みと聞いており、もう少し頻回に行うと受診率も上がるのではないか。

(事務局)

歯周病検診に関しては30歳35歳40歳45歳50歳で通知をしている。通知以外の方でも年齢が30歳以上であれば、希望するどなたでも受診券を発行して歯周病検診を受けることができるのだが、知られていなく悩んでいる。周知はしているのだが、なかなか知らない市民の方も多いため、引き続き検討していきたい。

(H委員)

条例制定されてから年数が経つ中で、これだけの事業をしっかりと行政が、一生懸命取り組んでいることを、どうして啓発できないのか。周知されてないことは、皆が不幸だと思うので、是非この委員会に参加している委員の先生方、私も含めて啓発ということをしっかり推進して取り組んでいかなければいけないことを再認識した。

(会長)

周知については、コロナ禍になり、対面でなかなか会えなくなり、色々なことを皆に伝えたくてもその方法がなかなか見つからなかった。これから、様々な方法を皆様に協力いただきながら考えていかななくてはいけないと思う。

(6) 令和5年度歯科保健事業計画

(事務局)

令和5年度歯科保健事業計画について資料に基づき説明を行った。

(委員)

質問なし

その他

(事務局)

令和5年度第1回の歯科保健推進会議は、令和5年の6月から7月の木曜日午後13時半から15時を予定している。日程については改めて調整させていただきたい。